

ねはんえほうおんせっしん

# 「涅槃会報恩摂心にちなんで」

平成22年 2月 第1週目 放送

そうとうしゅうだいほんざんえいへいじ しゅぎょうそう ねはんえほうおんせっしん ま ただなか  
福井県の曹洞宗大本山永平寺では、今、修行僧は「涅槃会報恩摂心」という修行の真っ只中に  
います。

ついたち ようか ざぜんざんまい  
二月一日から八日まで、朝四時より夜九時の間、坐禅三昧の修行が行われています。

しんしん しちどうがらん  
冬の一番寒いこの時期、年によっては雪が深々と降り積もる中、雪囲いに囲まれた七堂伽藍のひとつであ  
る坐禅堂、いわゆる僧堂では炭で暖をとりながら、二〇〇名余りの修行僧が坐り続けています。

なのかめ すいま いっしょけんめい  
本日は、ちょうど七日目の朝。足の痛む中、または、睡魔に負けそうになりながらも、一所懸命に坐禅を続  
けています。

ようかかん  
なぜ、そんなに辛い思いをしながら八日間も坐禅をし続けるのでしょうか。

ねはんえほうおんせっしん あらわ ねはん いたい しゅぎょう  
「涅槃会報恩摂心」とはその言葉の表す通り、お釈迦様の涅槃にちなみ、その偉大な教えに対し、修行  
僧がその恩に報いる為に、坐禅修行をするということです。

さらそうじゆ  
お釈迦様は、今からおよそ二五〇〇年前、インドのクシナガラの沙羅双樹のもとで、二月十五日に、安らかに  
お亡くなりになりました。これを私たちは涅槃と呼んでいます。

くろう すえ しゅつけ さと しょうがい  
お釈迦様は、苦悩の末、出家をし、坐禅修行の中で悟りを得ました。そして生涯をかけて広められた教  
えこそが仏教であります。

ひとびと みちび よ どころ  
仏教は二五〇〇年の間、脈々と伝えられ、現代でも多くの人々に心の導き手、拠り所となって生き続け  
ています。

おん むく  
お釈迦様の悟られた偉大な教えに対し、現在の私たちは、どのようにその恩に報いることができるのでしょうか。  
それはやはり修行しかないのです。特にお釈迦様が悟りを開いた坐禅修行なのです。

おん むく いっしょけんめい  
二月の極寒の中、修行僧たちはお釈迦様の教えに対し、その恩に報いようと、今この時間も一所懸命に坐  
り続けているのです。

ようか かんしゃ こう た ねはんえほうおんせっしん  
二月八日の朝、感謝のお香を焚き「涅槃会報恩摂心」という特別な修行は終わりをむかえるのです。

だいほんざんえいへいじの  
大本山永平寺での修行は、これからも、日々 肅 々 と続いて行くのです。